

常呂の駅通 (3)

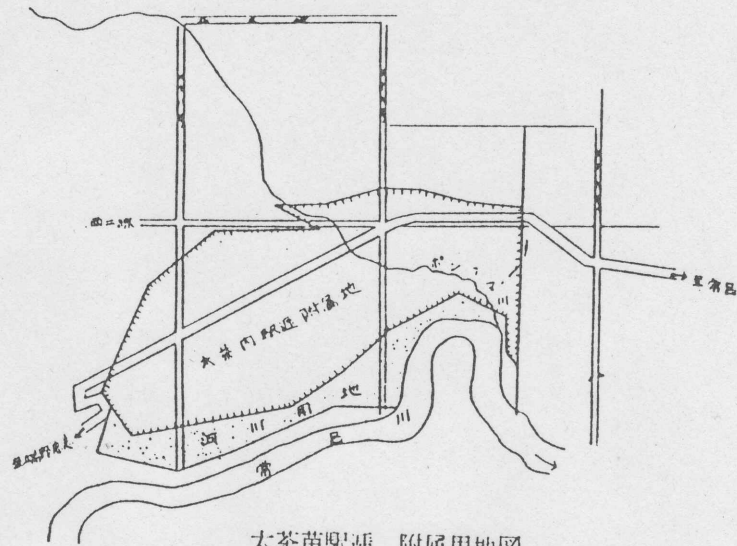
佐々木 寛

5. 太茶苗駅通

太茶苗駅通が設置されたのは『常呂村史』によると明治34年(1901)1月とありますが、『常呂町史』には明治34年2月1日、『北海道(官設)の駅通所』でも『網走市庁拓殖概覧』によると明治34年2月1日となっています。

この駅通の取扱人は石橋伝蔵で、後に手師学に移っても続けていたようですが、『北見市史』には石橋平四郎が取扱人となっています。場所は22号付近で、道々北見常呂線の道端に太茶苗駅通跡の標柱が建てられています。

太茶苗駅通について『北見市史』では図のように現在の日吉花木センター付近に附属用地があり、取扱人石橋平四郎に貸与されたとあり、その貸与の経緯について「移民の奥地進出につれて駅通も奥地へ移行するため、そのお膳立てとして明治四十年(1907)出願し許可となったもので、後に、端野常呂間道路と常呂村区画三十八号線との交点付近に手師学駅通が移転設置されるのである。この牧場地三十



太茶苗駅通 附属用地図

明治40年1月9日

駅通所官設物件台帳

牧場 112,855坪

畑地 13,488坪

(37町6反1畝25歩)

(4町4反9畝18歩)

太茶苗駅通附属用地図 (北見市史より)

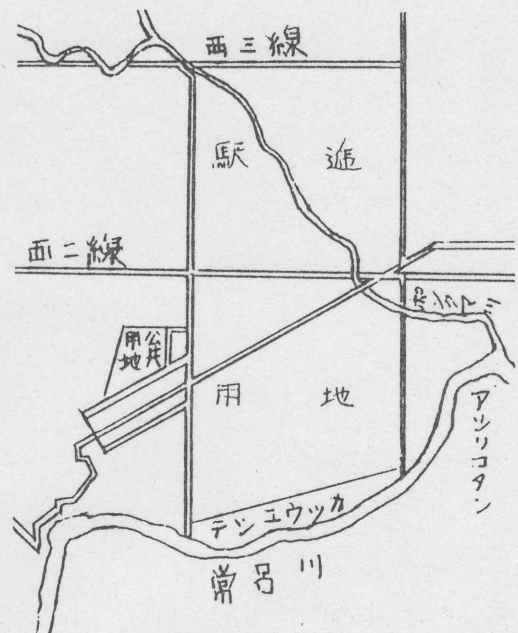
七町余と農耕地四町余の附属地は、出願してから直ちに支庁より係が来て測定して確定したとのことで、太茶苗（手師学）駅逓の場合は最初から四十二町歩に及ぶ大地積が貸与されている。」とあります。ほかの駅逓までの距離は常呂駅逓まで3里2町、野付牛駅逓まで7里30町となっており、宿泊料は明治41年末で1人1泊70銭、60銭、50銭と3段階にわかれていたようです。

この駅逓は距離をみてもわかるように、常呂に近く野付牛に遠く不便なため、明治45年(1912)1月19日の北海道庁告示第34号「北見国常呂郡手師学村字太茶苗駅逓所ヲ明治四十四年十二月二十二日ヨリ同国同郡同村ニ移転シタリ」および同年3月の北海道庁告示第65号「昨年十二月二十二日北見国常呂郡手師学村字太茶苗、太茶苗駅逓所ヲ同村ニ移転シ手師学駅逓所ト改称シタリ」にみられるように明治44年(1911)12月をもって手師学に移転しています。この移転の申請については新聞にも取り上げられており、明治43年(1910)10月9日の北海タイムスには「駅逓の変更 常呂郡太茶苗駅逓は常呂へ三里二十一丁野付牛へ七里卅丁にて旅客の不便少なからず殊に網走線開通と共に旅客頓に増加したるを以て手師学村字ボンクマアシリコタンへ新築移転申請中」と書かれており、さらに明治44年6月26日付北海タイムスにも「駅逓新設 常呂野付牛間の交通漸々頻繁を加ふるに至りたるより今回手師学村に駅逓を新設する事に決定し支庁よりは十九日近江主任実地調査の為の出張」などと書かれています。

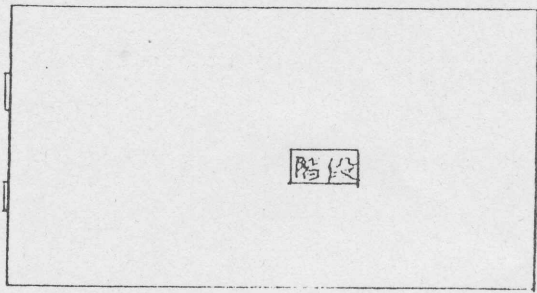
6. 手師学駅逓

手師学駅逓の建物は今でも日吉の花木センター向かいに残っており、道内でも数少ない現存する古い貴重な建築物ですので、今後も町などによって大切に保存していただきたいものです。

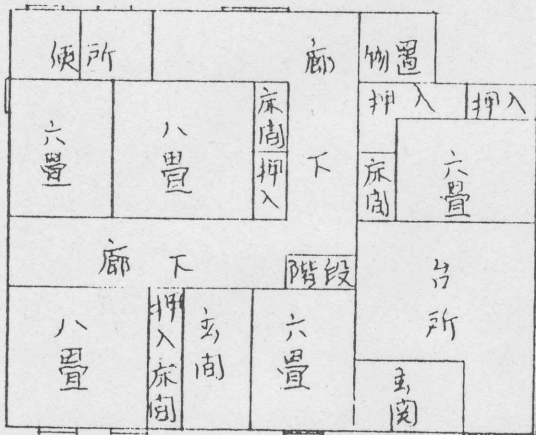
太茶苗から手師学に駅逓が移転されたのは、さきに太茶苗駅逓でも述べたように明治44年(1911)12月22日です。この駅逓について大正12年(1923)に出版された『手師学村史』には「本村駅逓ハ明治44年11月の浚成ニシテ旧太茶苗二十一号線ニアリシ既設駅逓ヲ廃シ該所ニ官設セラレシモノニシテ石橋平四郎ヲ取扱人トシ



手師学駅逓用地図



中二階 (30坪)



一階 (43.5坪)

手師学駅通所平面図

里13町48間となっています。

手師学駅通が廃止されたのは、『常呂村史』『常呂町史』ともに大正6年(1917)となっていますが、昭和5年(1930)6月7日の北海道庁告示772号に「左記官設駅通所ハ昭和五年六月十日限り之ヲ廃止ス」とあり、このなかに常呂駅通と手師学駅通があることから、昭和5年6月10日に常呂駅通と同時に廃止されたものと思われます。

常呂町教育委員会では7年ほど前にこの駅通を調査し、上図のように駅通の建物の平面図を作成しております。

参考文献

常呂村『常呂村史』	常呂町『常呂町史』
網走市『網走市史』	北見市『北見市史』
北海道庁『新撰北海道史』	北海道庁『新北海道史』
北海道庁『北海道道路概要』	
『開拓使事業報告』	『植民公報』
『北海道庁布令全書』	『北海道庁公報』
田崎 勇『北海道(官設)の駅通所』	
高倉新一郎『郷土史事典北海道』昌平社	
竹内 運平『北海道史要』(北海道出版企画センター)	

テ任命同月ヨリ旅人宿人馬継立軍用旅舎ヲ開業」とあり、取扱人を石橋平四郎としています。『北見市史』も同じく取扱人を石橋平四郎としていますが、『常呂村史』『常呂町史』ともに太茶苗駅通の取扱人であった石橋伝蔵がそのまま継続し、のちに石橋平四郎に変更していると書かれています。

大正後期から昭和初期に作成されたと思われる常呂地図(縮尺五千分の一)には前ページの図(常呂地図を縮小模写)のように、駅通用地が記入されています。この駅通から他駅通への距離は、常呂駅通へ5里28町21間1分、緋牛内駅通へ4里15町、野付牛駅通へ5里20町5分、下佐呂間駅通へ6里14町、卯原内駅通へ7

〔 常呂町駅通史年表 〕

明治2年(1869)	漁場請負人を廃し運上所を本陣と改め官員 人馬使用制限仮規則及人馬賃銭制定
明治3年(1870)11月	全道駅通人馬供給制限制定
明治5年(1872)1月	本陣を廃し旅籠屋並と改称
4月	旅籠屋並を廃し旅籠屋と改称
5月	会所旅籠を廃し駅場と改称
8月	本陣名目を廃し駅通扱所と改称
明治9年(1876)10月	駅通規則を更定
明治17年(1884)7月4日	鑑沸駅通設置(告示)
明治21年(1888)4月11日	人馬車継立営業規則制定
4月11日	常呂駅通設置(町史)
6月30日	釧路・根室・北見・千島の駅通所廃止
7月1日	人馬車継立営業規則制定
明治25年(1892)3月31日	鑑沸駅通を廃止して常呂駅通設置(告示)
4月	ワッカ駅通設置(町史)
5月14日	ワッカ駅通設置(告示)
明治28年(1895)5月	駅通補助金支給規程制定
6月	官設駅通所取扱規程制定
明治31年(1898)	駅通休泊所取扱規程制定
明治33年(1900)6月	駅通所規程制定
明治34年(1901)2月1日	太茶苗駅通設置(町史)
	常呂駅通放牧地として大島牧場開設
	ワッカ駅通放牧地として福吉牧場開設
明治40年(1907)	手師学に太茶苗駅通附属用地貸与
明治44年(1911)12月22日	太茶苗駅通を手師学に移転(告示)
明治45年(1912)	太茶苗駅通を手師学に移転(町史)
大正6年(1917)	手師学駅通廃止(町史)
大正8年(1919)	ワッカ駅通廃止(町史)
大正9年(1920)12月31日	ワッカ駅通廃止(告示)
昭和5年(1930)6月10日	常呂駅通、手師学駅通廃止(告示)